



教会月報

あつた

金光教熱田教会

No.720 2018.12

メール attakai@nifty.com

<http://attakai.life.coocan.jp/>

平成最後の年に

名古屋城本丸御殿完成 そして天守閣、木造改築へ

父・先代の歳を越え

教会長

私には、目標としている年齢がいくつかある。その一つ目は、父・先代道輝師が亡くなった六十二歳。次が母素子師が亡くなった六十六歳。その次が熱田教会の教師として一番長生きをした初代夫人で二代教会長の鈴木多つ師が亡くなった六十八歳で、最終的な目標は、教会の布教百五十年祭（今年が百二十五年後であるから二十五年後）の年、八十七歳である。

今年第一の目標としてきた六十二歳となった。そして「十一月末のある日には父の生きた日数を越える」と、大まかに数えていた。先月になって、せっかくだから正確に日数を数えてみようと思つて数えてみた。すると六十二年と三十一日先代は生きたという計算になった。私の誕生日一月十二日から数えたその日は、十二月二十三日であった。そして私は、その日を無事に迎えることができた。感無量だった。

先代の急死は心筋梗塞によるものと思われる。そしてその病因は恐らく、私と弟が診断されている「異形狭心症」によるものだろうと推測できる。先代は残念ながらこの病気を見つけられずにその

日を迎え、急激な発作で一気に命を終えたのだろう。私たち兄弟は、幸いにしてこの病気を見つけてもらうことができ、私は先代の歳を越えることができたのだが、それは先代が急死したおかげにと言つてもよからう。

改めて思われることは、「若かったなあ」ということだ。私という頼りないが一応の後継者ができて、さてここからどのように御用を展開していくかと考えていただろう。『あれも教えなくては、これも伝えておかなくては』と思いつめぐらせていたに違いない。その無念さが想われてならない。

もし長生きしていたら、私とたびたび意見が食い違っていたらと思うられる。それはそれで難儀な困ったことになったらと思うと想像される。それでもやはり「おやじがいたらどうするだろう」と思うことはたびたびあった。御霊神様に相談を持ちかけたこともある。そのたびに御霊様となった父は、『お前の思うようにやれ』と見守ってくれた。ありがたいことだった。

来年七月で先代が亡くなって満三十年となる。この三十年を振り返ると、進むべき道を誤ったのではないかと思うことも、お取次において不十分であったとも、いくつも思い当たる。過ぎたことは取り返しがつかず神様にお詫言するしかないが、ここからの進むべき道を輝く方へと導いてくださいと願うこと切である。

